

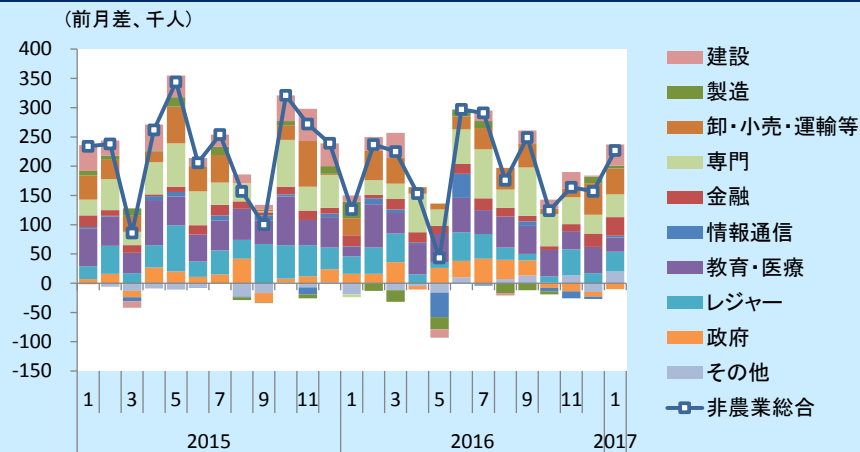
米国：雇用統計（2017年1月）

一雇用者数の増加ペースが加速、雇用環境は良好一

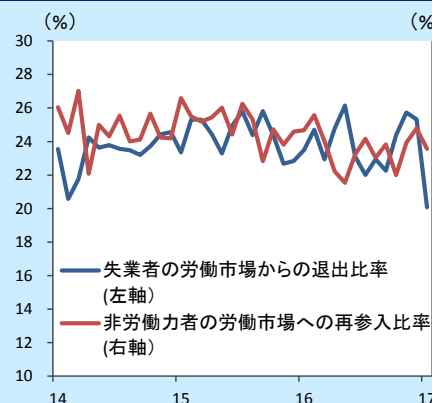
MRI Daily Economic Points

February 6, 2017

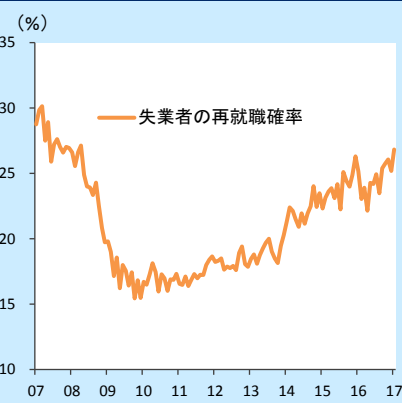
図表1 非農業部門雇用者数



図表2 労働市場への参入・退出比率



図表3 失業者の再就職確率



評価ポイント

今回の結果

- 17年1月の非農業部門雇用者数は、前月差+22.7万人増と、前月(同+15.7万人)から増加幅が大幅に拡大した。
- 内訳をみると、小売業(同+4.6万人)、専門・ビジネスサービス(同+3.9万人)で大幅な拡大が続いたほか、前月伸びが低下した建設業(同+3.6万人)、レジャー(同+3.4万人)で増加幅が拡大。原油価格の安定化を背景に、シェール関連産業を含む鉱業・林業も3ヶ月連続で増加した。
- 1月の失業率は、4.8%と前月(4.7%)から小幅上昇。もっとも、労働参加率が62.9%と前月(62.7%)から上昇した影響が大きい。16年以降の傾向をみると、①非労働力化していた者が職探しを始め、労働市場へ再び参入しつつあるほか、②失業者が労働市場にとどまりつつある(図表2)。
- 時間当たり平均賃金は、前年比+2.5%と前月(同+2.8%)から低下。失業率がFOMC参加者が想定する長期均衡水準(4.8%程度)まで改善する中、賃金上昇率の一段の上昇が期待されたが、1月は伸びが後退した。

基調判断と今後の流れ

- 良好な雇用環境が続いている。1月は雇用者数の増加幅が大幅に拡大。直近3ヶ月の雇用者の増加ペースは、月平均+18.3万人と伸びを高めた。新規失業給付受給者数の減少し、企業の求人数の増加傾向が続く中、失業者の再就職確率も上昇している(図表3)。
- 先行きも良好な雇用環境は続く見込む。①失業率が長期均衡水準(4.8%程度)付近まで低下しているほか、②製造業、非製造業ともに企業の雇用スタンスは高い。③内需も堅調に推移している。
- ただし、トランプ新政策の減税やインフラ投資は内需を刺激するとみられるが、①財政悪化懸念による長期金利の上昇や、②保護主義化により輸入物価が上昇し、内需に下押し圧力がかかる場合には、企業の雇用スタンスが慎重化し、雇用環境に悪影響が及ぶことも考えられる。